

共立女大家政 泉谷 希光

1. 食物は生理的欲求にのみ基づいて存在するものではない。勿論、人間が生命を維持する手段として食物が絶対的であることに問題はないし、世界的な食糧の欠乏が云々されている以上、生理的食物としての意義は大きい。

しかし、人類の発展のなかで求められてきた食物には生理的欲求をはるかに超えた欲求が内在するのである。家政学領域に於ける食物研究が生理的食物研究、化学的食物研究にその目的が偏向しているのは、日本に於ける敗戦前後の食糧不足、栄養疾患などに起因するのであろうし、又食物を生物と考え、食物研究は理科系部門であるという先入的固定観念に起因するものでもあろう。従って、食物を健康管理手段と考え、人間(家族)の管理手段として食物を考えることをしなかったのであろう。このことは家政文化を研究対象とする当学会に於ける著しい欠陥と云うべきであらう。

そこで報告者は食物の人間に対する機能を解析し、家政学に於ける食物研究の対象をとらえたいと考え考察を試みた。

2. 食物の人間に与える影響を現代科学の方法論に基づき解析した。

3. 食物に対して多くの未開拓の研究分野を発見でき、家政学領域に於ける食物研究の一つの指標を示すことが出来たと考える。